

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性肝疾患の多い沖縄県で活動する肝炎医療コーディネーターへの
支援に関する研究

研究分担者 前城達次 琉球大学病院第一内科 特命講師

研究要旨

【背景】沖縄県では肝臓病の第一の原因はアルコール性であり、近年は脂肪性肝疾患も増加傾向である。そのため肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）として肝炎ウイルス感染者への対応に加えて飲酒を含む生活習慣病を合併した肝臓病患者への対応も重要度を増している。近年の新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活に関連したアルコール性肝疾患や脂肪性肝疾患患者の増加、肝炎ウイルス感染者の受診控えなど、対象者の状況も変化しており、結果的に肝炎 Co の状況も大きく変化していると思われる。現在の環境下で肝炎 Co 活動にどのような問題が存在するのか、その解決にむけて現状を検討した。

【方法】沖縄県で活動する肝炎 Co について下記の内容を調査した。

①肝炎 Co の配置、職種に関して。 ②肝炎 Co の現状について。 ③肝炎 Co 活動における問題点。

【結果】

①沖縄県の肝炎 Co は離島へき地では少数であった。さらにその環境下では専門医の応援も少なく肝炎 Co にとっては情報不足から活動低下につながる危険性が高い。②活動の継続性では、特に行政や保健所の保健師、専門医療機関における肝炎 Co 配置転換などで活動が十分に継続できていない場合もみられた。その場合には引き継ぎなどの肝炎 Co どうしの連携、継続性を確立することが重要と考えられた。③肝炎 Co 活動に関しては複数の問題点があり、最も重要なのは医療機関、専門医との効果的な連携が重要だと思われる。勤務機関での支援だけでなく、拠点病院などからの直接的な情報提供や、WEB などを利用した情報提供が肝炎 Co には重要であると考えられる。

A. 研究目的

沖縄県では肝臓病の第一の原因はアルコール性であり、近年は脂肪性肝疾患も増加傾向である。そのため肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）として肝炎ウイルス感染者への対応に加えて飲酒を含む生活習慣病を合併した肝臓病患者への対応も重要度を増している。近年の新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活と関連したアルコー

ル性肝疾患や脂肪性肝疾患患者の増加、肝炎ウイルス感染者の受診控えなど、対象者の状況も変化しており、結果的に肝炎 Co の状況も大きく変化していると思われる。現在の環境下で肝炎 Co の実情とその問題点を確認し、今後の活動に資することを目的として肝炎 Co の実情調査を行った。

B. 研究方法

1) 沖縄県における肝炎 Co の配置に関する

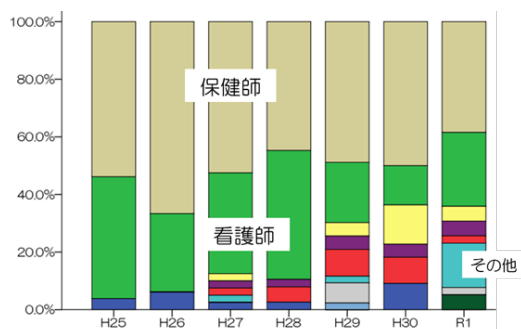
調査；肝炎 Co 養成の責任者である沖縄県へ依頼して離島を含む県内での肝炎 Co の配置を検討した。

2) 沖縄県で養成された肝炎 Co の現状調査：現在まで肝炎 Co として連絡先が判明している 165 名に現状調査を行った

3) 肝炎 Co が活動する上で感じている支障や今後の要望などに関して調査した。

C. 研究結果

1) 沖縄県では R1 年度までに合計 241 名の肝炎 Co が認定されている。(R2, R3 年はなし)肝炎 Co の職種は複数あるが、当初は行政や保健所の保健師、専門医療機関の看護師のみに募集していたこともあり、保健師が多数を占めている。しかし近年は薬剤師やケースワーカーなども養成されてきている。



これらの肝炎 Co の多くは沖縄本島内の施設に配置されており、特に離島へき地地域においては少数であった。

	認定者数(%)
北部	28(11.6%)
中部	91(37.8%)
南部	97(40.2%)
宮古	13(5.4%)
八重山	10(4.1%)
その他(患者)	2(0.8%)

加えて、沖縄本島北部地域や、離島における医療機関には肝臓学会専門医が勤務していないか、ローテーション医師しかおらず、肝炎 Co が専門医に気軽に相談できる環境ではないことが問題の一つとしてあげられた。

	二次医療圏	肝炎Co勤務	肝臓学会専門医
沖縄県立北部病院	北部	+	-
北部地区医師会病院		+	- (非常勤+)
沖縄県立中部病院	中部	-	+
中頭病院		+	+
ハートライフ病院		+	+
浦添総合病院	南部	+	+
沖縄県立南部医療センター		-	+
豊見城中央病院		+	+
那覇市立病院		+	+
沖縄県立宮古病院	宮古	+	-
沖縄県立八重山病院	八重山	+	+(ローテーション)
琉球大学病院	南部	+	+
なかぞね内科	南部	-	-
たいら内科	宮古	-	-

2) 肝炎 Co の現状に関して、肝炎 Co として認識できる活動ができていると返答する肝炎 Co は約 40%程度であった。近年増加傾向の薬剤師やケースワーカーなどの職種の肝炎 Co はそのまま肝炎 Co としての活動を継続できる場合が多い。しかし大多数を占める保健師や病院看護師などは配置転換や離職などで肝炎 Co としての活動ができないケースも見られた。特に新型コロナ感染拡大の状況から肝炎対策専門で対応していた肝炎 Co がコロナ担当になるケースも見られた。

【事例】
✓ 自治体感染症担当 → 難病担当
✓ 保健所感染症担当 → 自治体生活習慣病対策へ
✓ 病院外来で肝炎Coとして活動 → 一般外科病棟へ → コロナ病棟へ
✓ R2年度に感染症+生活習慣病関連で共同活動した保健師もR3からは新型コロナワクチン接種担当業務へ。

3) 肝炎 Co が活動する上で支障になることや要望に関して。主には①医療機関に対する要望、②専門医がいない地域的な問題に関して、③肝炎ウイルス感染者に対する説明の上での問題、④生活習慣病患者に対する指導における困難さなどがあげられる。

①に関する具体的な要望として肝炎ウイルス検査を詳細に行えるクリニックの情報不足、健診結果から医療機関への受診勧奨、その後の受診確認、情報提供、健康相談、健診受診の継続の要望、受診結果の説明がどの程度まで行われ、ご理解いただいているか不明な点、患者への指導にあたり、無関心にさせないような丁寧な説明を希望している

こと、健診異常で受診した住民が処方や次回受療案内がないことで自分には異常ないと安心する説明方法などがあげられ、地域の医療機関と連携不十分ことが伺えた。特に地域の肝炎 Co が説得して病院受診させた患者が、医師からは簡単に説明され大したことないと判断され肝炎 Co の対応が過剰だと認識されることへの不満など。②専門医が不在な事に関して、肝機能異常で要医療の方も多いが離島のため通院に経済的負担が大きく、検査結果だけでは受診ができない、専門医が少ない地域で、連携がとれる内科を開拓して頂きたい（遠方や大病院を嫌がり受診をしない人がいる）など離島へき地ならではの問題で苦勞されている肝炎 Co の存在もみられた。さらに③④に関しては肝炎ウイルス感染者の治療適応、経過観察の重要性などの説明の難しさや、飲酒を含む生活習慣改善を理解させ実行させることの困難さ、など多くの情報が必要とされているが、その情報不足に直面している問題点などが確認された。

D. 考察

沖縄県における肝炎 Co 配置の問題として、主にその地域的偏在と職種の問題があげられる。沖縄本島内の中南部地域では比較的多くの肝炎 Co が勤務していた。一方、離島へき地地域では肝炎 Co は少数であった。さらに離島へき地地域では肝臓専門医も少なく、肝炎 Co からの受診先の提案や気軽に相談できる環境にないことが問題としてあげられる。後述の紹介先医療機関との連携不十分な問題も併せて肝炎 Co や医療機関との連携を構築することが重要であると思われる。また肝炎 Co の職種に関して、沖縄県では本制度の開始直後から大多数は自治体、保健所の保健師、専門医療機関の看護師を中心に募集をかけたことからこれらの職種が多い。しかしこれらの職種の肝炎 Co は定

期的な配置転換などがあり、長期的に継続して肝炎 Co の活動ができていない。これらを速やかに解決することは困難かと思われるが、逆に肝炎 Co 活動の継続性を確保する連携体制ができないかどうか、今後各保健師、看護師の肝炎 Co と検討する必要があると思われる。

肝炎 Co が活動している状況で支障になることに関しては、複数の要因が考えられた。医療機関との連携不十分な点からは肝炎 Co のモチベーション低下に繋がるのが危惧される。この点に関しては医療機関、特に医師の対応が重要であると考えられるが、肝炎 Co をはじめ各地域の保健師が困っている現状を医師会や他の多くの機会を通じて周知していく必要があると考えられた。肝炎ウイルスに関する情報や生活習慣病対策に寄与する情報不足に関しては、拠点病院の活動が重要になる。新型コロナ感染拡大による数少ない良かった点としては各地域で WEB での情報共有が一般化してきたことである。離島へき地が多い沖縄県では、沖縄本島内で集合での勉強会には参加できない肝炎 Co も多数いたが、この 2 年間での WEB での勉強会には離島へき地からの多くの参加希望者がいた。今後はこれらの方法を活用して情報提供の機会をさらに充実させること重要である。

E. 結論

新型コロナ感染拡大、それによる社会活動低下による生活習慣病対策が重要になってきている状況で、肝炎 Co の環境も変化してきている。特に医療機関との連携、活動の継続性、情報共有の方法など、今後も現状に合わせてより良い方向に対応する必要性が高まっている。この問題点を把握しながら肝炎 Co の活動を支援していく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他